

資源評価調査委託事業

浮魚資源調査

田中 淳也・小泉 広明

目 的

沿岸小型定置網による浮魚の漁獲状況を把握し、漁海況予報、水産資源の評価のための基礎資料とする。

材料と方法

- 1 調査地区 外ヶ浜町平館
- 2 調査回数 毎月1回
- 3 対象魚種 マイワシ、カタクチイワシ、サバ類(マサバおよびゴマサバ)
- 4 対象漁法 小型定置網
- 5 調査項目 ①体重・体長測定②漁獲量集計

結 果

1 マイワシ

図1にH17年からH21年の漁獲量の経年推移を示した。漁獲量はH18年の407tをピークに減少し、H21年は38.7tと5年平均の26.2%、前年の70%となった。図2にH21年の漁獲量の経月推移を示した。H21年は5月に漁獲がピークとなった。ピーク時の被鱗体長組成は、113mm～167mmの範囲で、モードが131mm～137mmと140mm～146mmにあった(図3)。

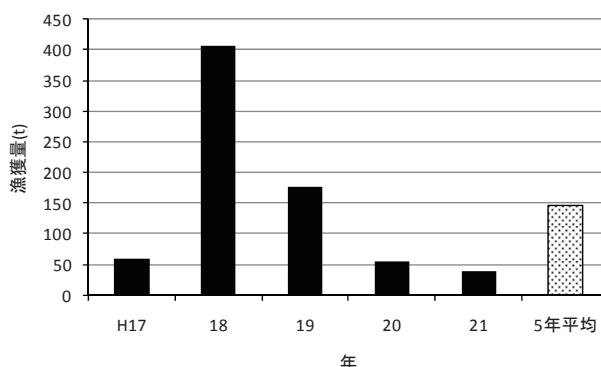


図1 マイワシ漁獲量経年変化

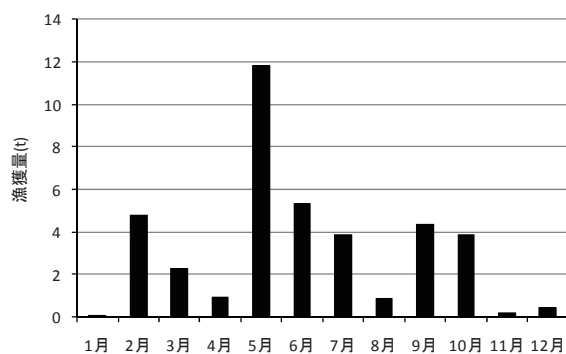


図2 マイワシ月別漁獲量

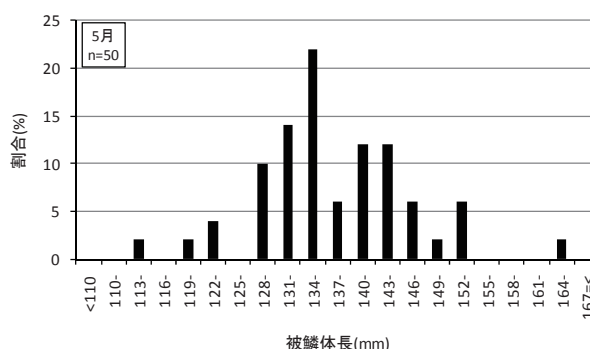


図3 マイワシ被鱗体長組成

2 カタクチイワシ

図4にH17年からH21年の漁獲量の経年推移を示した。漁獲量は、H20年は1,914tと好漁となり、H21年は699tと5年平均の116.7%、前年の36.5%となった。図5にH21年の漁獲量の経月推移を示した。H21

年は5月～6月に漁獲のピークとなった。漁獲が最も多かった5月の被鱗体長組成は、73mm～127mmの範囲にあった(図6)。

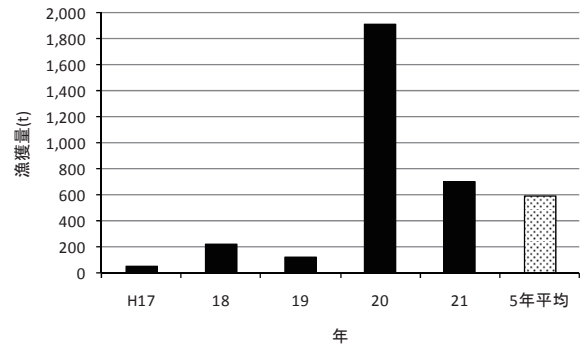


図4 カタクチイワシ漁獲量経年変化

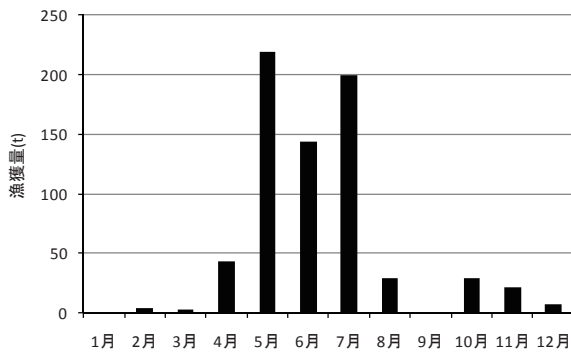


図5 カタクチイワシ月別漁獲量

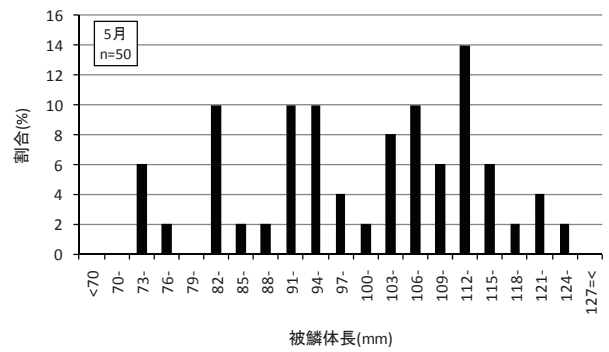


図6 カタクチイワシ被鱗体長組成

3 サバ類

図7にH17年からH21年の5カ年の漁獲の推移を示した。漁獲量はH19年の8tを境に増加傾向にあり、H21年は61.2tと5年平均の110.1%、前年の148.2%となった。図8にH21年の月別漁獲量の推移を示した。H21年は11月～12月に漁獲のピークとなった。漁獲が最も多かった12月のマサバの尾叉長組成は、160mm～244mmの範囲で、モードが180mm～192mmと208mm～212mmにあった(図9)。

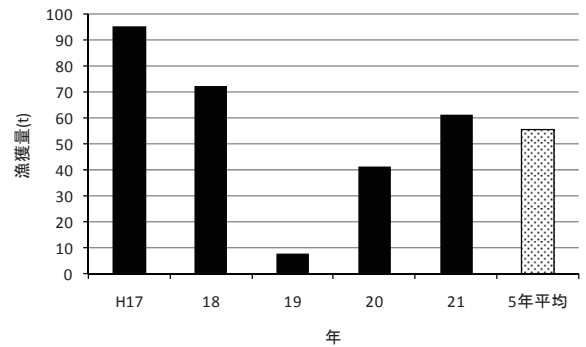


図7 サバ類漁獲量経年変化

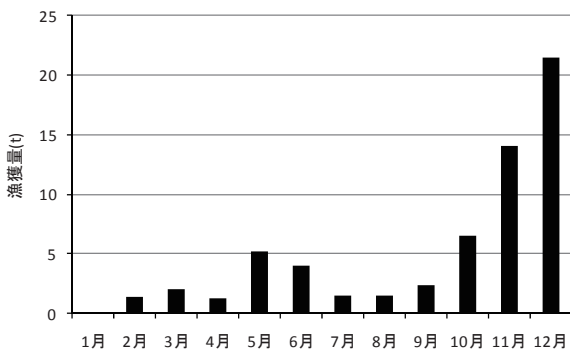


図8 サバ類月別漁獲量

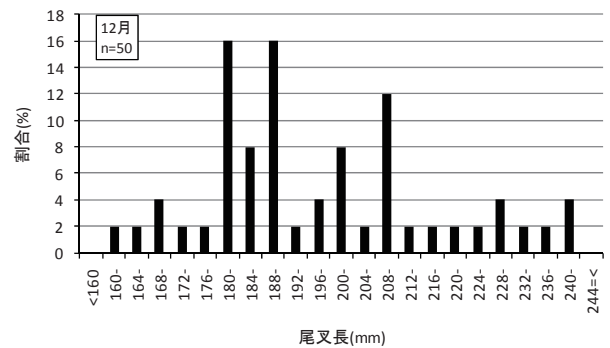


図9 マサバ尾叉長組成